

に鞭されて狂人のさまをなし門の扉に書き真涎沫を糞にかかれらしむ。アキシ僕云けるハ汝らの見でどく此ハ狂人なり何んかれを我ハひきたるや。我なんぞ狂人を須めんや。汝ら此者を引きたりてわがまへに狂じめんとするや。此者かんで吾が家かひるべけんや。

第二十一節 是故ハダビデ其處をいでたちてアブラハムの洞穴かのる其兄弟および父の家みな開き

およびて彼處にくだり彼の許をいたる。また惱める人負債者心に嫌ぬ者皆かれの許にあつまつて彼其長となれり。あれどもに有る者之かよる四百人なり。ダビデ其處よりモアのミツバのあたりにモアの

王にひけるハ神の我をいよみなしたまふかを知るまでぬがたくハわが父母をして出て汝らどもにをらしめよと。遂にかれらモアの王のまへにつれきたるかれらハダビデが要害ををる間王どもにありき。預言者ガダビデに云けるハ要害に住るなかれゆきてユダの地にいたれとダビデゆきてアレサの

叢林にいたる。爰にサウルダビデおよびかれどもなる人々の見露されしを聞けり。時にサウルハギバにあり手に槍を執て岡籬の柳の樹の下にをり臣僕ども皆其傍わたり。サウル側にてる僕にひける

ハ汝らニシヤミソ人聞けよ。エサイの子汝らおのくに田を葡萄園をわたへ。汝らおのくにを千夫長百夫長となすことあらんや。汝ら皆我に敵して謀り一人もわが子のエサイの子と契約を結びしを我につけ

老する者なした汝一人もわがために憂へずわが子が今日のどくが僕をよげまつて道に伏て我を思ふと。汝めんとするを我につげしらす者なし。時にエミムサウルの僕中になち居りしが答

へてひひけるハ我エサイの子のノアにゆきてアヒトアの子アヒメレクにいたるを見しが。アヒメレクかれのためハエホバに問ひまたかれハ食物をわたへ。リシマエリアアアが劍をわたたりと。王すふさち

一 母五〇百二〇
二 母一〇三
三 母一四〇十一代生
四 代二〇三五

一 母六〇四
二 母六〇三
三 母六〇二

一 母二〇七
二 母二〇六
三 母二〇五
四 母二〇四
五 母二〇三
六 母二〇二
七 母二〇一
八 母二〇〇

一 母三〇七
二 母三〇六
三 母三〇五
四 母三〇四
五 母三〇三
六 母三〇二
七 母三〇一
八 母三〇〇

一 母三〇七
二 母三〇六
三 母三〇五
四 母三〇四
五 母三〇三
六 母三〇二
七 母三〇一
八 母三〇〇

一 母三〇七
二 母三〇六
三 母三〇五
四 母三〇四
五 母三〇三
六 母三〇二
七 母三〇一
八 母三〇〇

一 母三〇七
二 母三〇六
三 母三〇五
四 母三〇四
五 母三〇三
六 母三〇二
七 母三〇一
八 母三〇〇

一 母三〇七
二 母三〇六
三 母三〇五
四 母三〇四
五 母三〇三
六 母三〇二
七 母三〇一
八 母三〇〇

人をつかしてアヒトアの子祭司アヒメレクおよびその父の家すなをアヒトアの祭司たる人々を召したれ。とみん王の許にきたる。サウルひひけるハ汝アヒトアの子聽し答へけるハ。ま。我こそにわり。サウルかれにいふ。汝なんぞエサイの子どもに我に敵して謀り汝かれにバシと劍をわたへ。彼が爲に神に問ひかれ。をして今日のどく道に伏て我をおそと。志めんとするや。アヒメレク王わてひひけるハ。汝の臣僕のうち誰かダビデのどく忠義ある彼ハ王の婿にして親しく汝を見ゆるもの。汝の家を奪まらる者。わが亦や。我其時かれのため神に問へど。を始めて去らる。王僕およびわが父の全家。亦何をも歸するな。かれ其ハ僕この事についてハ。多少をいふ。余何をも去らざれば。あり。王ひひけるハ。アヒメレク汝必ず死ぬべし。汝の父の全家も。法かりと。王傍にたて。る前驅の人々にひひけるハ。身をひる。ふ。してエホバの祭司を殺せ。かれらも。アヒデと力を合する。の。故。また。かれら。アヒデの。逃。たる。を。ま。り。て。我。に。告。ぎ。り。し。故。あり。と。然。王の。僕。手。を。い。だ。し。て。エ。ホ。バ。の。祭。司。を。撃。つ。と。を。好。ま。ざ。ざ。れ。バ。王。ハ。ア。ヒ。メ。レ。ク。に。い。ふ。汝。身。を。ひ。ら。ふ。べ。し。て。祭。司。を。こ。ろ。せ。と。エ。ホ。バ。の。祭。司。も。身。を。ひ。ら。ふ。が。へ。し。て。祭。司。を。う。す。と。其。日。布。の。エ。ホ。バ。を。表。した。る。者。八。十。五。人。を。こ。ろ。せ。り。か。れ。ま。た。刃。を。以。て。祭。司。の。巴。ノ。ア。を。撃。ち。刃。を。も。て。男。女。童。稚。嬰。孩。牛。驢。馬。羊。を。殺。せ。り。ア。ヒ。ト。ア。の。子。ア。ヒ。メ。レ。ク。の。一。人。の。子。ア。ヒ。メ。レ。ク。と。な。つ。く。者。逃。れ。て。ア。ヒ。デ。に。は。し。り。去。ら。ふ。ふ。ア。ヒ。メ。レ。ク。サ。ウ。ル。が。エ。ホ。バ。の。祭。司。を。殺。し。た。る。と。を。ア。ヒ。デ。に。告。ぐ。カ。バ。ア。ヒ。デ。ア。ヒ。メ。レ。ク。の。日。エ。ホ。バ。の。彼。處。を。う。し。か。バ。我。か。れ。必。ら。ず。サ。ウ。ル。に。つ。げ。ん。と。を。知。れ。り。我。汝。の。父。の。家。の。人。々。の。生。命。を。聖。へ。る。源。由。と。さ。れ。り。汝。我。と。も。に。居。れ。懼。る。と。な。か。れ。わ。が。生。命。を。求。む。る。者。汝。の。生。命。を。求。む。る。な。り。汝。我。と。も。に。わ。ら。ハ。安全。ある。べ。し。

否をどひ　　くのでとくい願へり　爾が家守するなれ　爾が有てこそ　物もかや
すらかなれ　我爾の羊毛を剪せざるを聞り　爾の牧羊者　我らとともわわし　が我ら　これを害せざり　さや
たかれら　カスル　わわし　わひ　だかれら　の物　何れも　失たると　なし　爾の少者に　聞へかれ　爾につげん
願へり　少者をして　爾のまへに　恩を　せしめ　よ　我ら　吉日　も来る　請ふ　爾の　手に　ある　ところの　物を　爾の　僕ら　か
よ　次　爾の子　ダビデ　に　わたす　よ　ダビデの　少者　いたり　ダビデの　名をもつて　是ら　の　こと　を　の　如く　ナバル　も　語
りて　やめり　ナバル　ダビデの　僕に　こたへて　いひける　り　ダビデ　誰　ある　エ　カ　の　子　誰　ある　此　頃　り　主人　を
すて　遁逃　る　僕　おほし　我　わに　わ　わ　パ　ン　と　水　か　よ　び　わ　が　羊　毛　を　さ　る　者　の　ため　も　殺　した　る　肉　を　とりて　何
處　より　か　知　れ　ざ　る　と　こ　ろ　の　人　々　に　わ　た　ふ　べ　け　ん　や　ダ　ビ　デ　の　少　者　ふ　り　か　へ　り　て　其　道　に　馳　き　歸　り　さ　り　て
此　等　の　言　の　で　と　く　ダ　ビ　デ　に　告　ぐ　是　に　お　い　て　ダ　ビ　デ　其　從　者　に　爾　ら　の　劍　を　帶　よ　と　言　け　れ　バ　各　劍　を
お　ぶ　ダ　ビ　デ　も　また　劍　を　お　も　な　り　て　四　百　人　ば　の　り　ダ　ビ　デ　に　た　が　ひ　て　上　り　二　百　人　ハ　輕　重　の　と　こ　ろ　に　止　れ　り
時　に　は　い　ど　り　の　少　者　ナ　バ　ル　の　妻　ダ　ビ　デ　に　つ　い　て　い　ひ　け　り　爾　よ　ダ　ビ　デ　野　よ　り　使　者　を　あ　く　り　て　我　ら　の　主
人　を　配　した　る　に　主人　か　れ　ら　を　言　れ　り　され　ど　か　の　人　々　ハ　わ　れ　ら　に　甚　だ　善　く　あ　し　我　ら　ハ　害　を　の　う　ら　ず　亦
わ　れ　ら　野　に　わ　り　し　時　か　れ　ら　と　も　に　な　る　わ　ひ　た　り　あ　む　を　も　失　ふ　と　さ　り　き　我　ら　の　羊　を　か　ひ　て　彼　ら　と　も
あ　り　し　わ　ひ　だ　彼　ら　ハ　日　夜　わ　れ　ら　の　糧　と　も　あ　れ　り　され　バ　爾　今　云　り　て　な　お　を　な　さ　な　を　考　ふ　べ　し　其　ハ　わ　れ
ら　の　主人　か　よ　び　主人　の　全家　を　定　め　て　害　け　た　る　べ　け　れ　バ　な　り　主人　ハ　邪　魔　な　る　者　に　し　て　語　る　こ　と　を　受　け　ず　と
ア　バ　ル　の　う　た　へ　二　百　酒　の　革　囊　二　既　本　調　へ　た　る　羊　五　疋　麥　五　セ　フ　乾　葡萄　荷　百　球　乾　無　花　果　杖　團　塊　二　百
を　取　て　驢　馬　本　の　せ　其　少　者　に　い　ひ　け　り　わ　が　先　か　進　め　願　よ　我　爾　ら　の　後　も　ゆ　く　と　然　ぞ　其　次　ナ　バ　ル　に　告　げ

廿六
廿七
廿八
廿九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

ざり　ア　バ　ル　驢　馬　の　り　て　山　の　僻　處　わ　く　だ　れ　る　時　視　よ　ダ　ビ　デ　と　其　從　者　か　れ　に　む　か　ひ　て　く　だ　り　け　れ　バ
かれ　其人　々　に　わ　ふ　ダ　ビ　デ　か　つ　て　い　ひ　け　り　誠　わ　れ　徒　に　此　人　の　野　わ　て　有　る　物　を　み　な　ま　り　て　その　物　を
して　何　も　う　せ　ざ　ら　し　め　た　り　かれ　ハ　惡　を　も　て　わ　が　善　を　む　け　ゆ　三　ね　ぶ　と　く　ハ　神　ダ　ビ　デ　の　敵　わ　か　く　あ　し　ま　た　重
ね　て　か　く　な　し　た　ま　へ　明　晨　ま　に　我　ハ　ナ　バ　ル　を　屬　す　る　總　て　の　物　の　中　に　い　ど　り　の　男　を　も　の　こ　さ　る　べ　し　ア　バ
ル　ダ　ビ　デ　を　視　し　と　急　ぎ　驢　馬　よ　り　か　り　ダ　ビ　デ　の　ま　へ　に　地　に　俯　し　拜　し　其　足　も　ど　も　か　へ　し　て　い　ひ　け　り
わ　が　主　よ　此　容　を　我　も　歸　し　た　ま　へ　但　し　婢　を　し　て　爾　の　耳　わ　い　ふ　こ　と　を　得　さ　し　め　婢　の　こ　と　を　聽　た　ま　へ　ね
と　く　ハ　我　主　の　邪　な　る　人　ナ　バ　ル　の　事　を　意　に　介　ひ　な　か　れ　其　ハ　か　れ　ハ　其　名　の　如　く　な　れ　心　な　り　か　れ　の　名　ハ
ナ　バ　ル　に　し　て　か　れ　ハ　愚　な　り　わ　れ　亦　な　ら　ん　が　の　婢　ハ　わ　が　主　の　つ　か　は　せ　し　少　し　の　を　見　さ　り　き　され　た　わ　が　ま　ゆ　よ
エ　ホ　バ　ハ　い　く　ま　た　な　ん　ぢ　の　た　ま　し　ひ　い　く　エ　ホ　バ　な　ん　ぢ　の　さ　たり　て　血　を　か　し　ま　た　爾　の　ま　つ　か　ら　仇　を　む
く　ゆ　る　を　阻　め　た　ま　へ　り　ぬ　が　と　く　ハ　爾　の　敵　た　る　もの　も　よ　び　わ　が　主　に　害　を　く　と　へ　ん　と　す　る　者　ハ　ナ　バ　ル　に　お　よ
く　な　れ　さて　仕　女　わ　が　主　に　も　ち　さ　り　し　の　禮　物　を　ぬ　が　と　く　ハ　わ　が　主　の　足　跡　に　お　ゆ　ひ　少　者　に　た　て　ま　つ
ら　し　め　た　ま　へ　請　ふ　婢　の　過　を　ゆる　し　た　ま　へ　エ　ホ　バ　必　ら　す　わ　が　主　の　ため　に　堅　き　家　を　立　た　ま　え　ん　是　ハ　わ　が　主
エ　ホ　バ　の　軍　も　戦　ふ　よ　り　又　世　に　い　で　よ　り　こ　の　か　た　爾　の　身　も　惡　き　と　見　え　さ　る　に　よ　り　て　なり　人　た　ち　て　爾
を　追　ひ　爾　の　生命　を　求　め　り　れ　ど　も　わ　が　主　の　生命　ハ　爾　の　神　エ　ホ　バ　と　も　に　生命　の　包　裹　の　中　に　包　み　あり　爾　の　敵　は
生命　ハ　投　石　器　の　うち　より　投　ず　つ　る　が　く　エ　ホ　バ　これ　を　な　げ　す　て　た　ま　え　ん　エ　ホ　バ　の　爾　に　つ　き　て　語　り　た
ま　ひ　し　諸　の　善　き　事　を　わ　が　主　に　な　し　て　爾　を　イ　ス　ラ　エ　ル　の　主　宰　に　命　じ　た　ま　え　ん　爾　に　い　たり　て　爾　の　故　な　く　し
て　血　を　な　が　し　た　る　こ　と　も　又　わ　が　主　の　み　つ　か　ら　其　仇　を　む　く　い　し　事　も　爾　の　愛　と　な　る　こ　と　な　く　ま　た　わ　が　主　の　心

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

の責となることあかるとは、但しエホバのわが主に喜んたすまふ時にいたらぬが、そのく、婢を懐胎せし
 三三 びテアヒガルにいふ今日汝をつかして我をむかへしめたまふイスラエルの神エホバの禱美べきか
 三二 また汝の智慧は、はびきりな又汝は、はむべきかな、汝今日わがむかひて血をあかし自ら仇をむくゆる
 三一 を止めたり、且汝を害するを阻めたまひしイスラエルの神エホバの生く誠にも、汝にむきて我を來
 人迎すを、必ず翌朝まで、にナバルの所に、いさりの男もの、こらざりしならん、と、びテアヒガルの携へきた
 りし物を、其手より、奪て、かれにいひける、いんあか、お汝の、家にかへりの、ばれ、虜よ、われ汝の、言を、きく、いれて、汝の
 顔を、立たり、かくて、アヒガル、ナバルに、いたりて、視に、かれ、人家に、酒宴を、設け、居たり、王の、酒宴の、おどし、ナ
 バルの、心、これ、が、ため、に、樂みて、甚たしく、酔たれ、バヒガル、多少を、いせ、歩何をも、翌朝まで、かれにつげ、さ
 三 朝に、いたり、ナバルの、酒の、さめたる、照妻、かれに、是等の、事をつげたるに、彼の、心、その、うちに、死て、其、身石の、ごと
 く、ありぬ、十日、ばかり、ありて、エホバ、ナバルを、懲らしたまひ、けれ、死し、びテアヒガルの、死たるを、聞いて、いひ
 ける、エホバ、の、願美、べき、かな、エホバ、わが、誓ひ、りたる、恥辱の、訟を、理して、ナバルに、むく、い、償を、阻めて、惡を、か
 て、あせ、ざら、しめ、たまふ、其、エホバ、ナバルの、惡を、其、首に、歸し、賜へ、なり、と、爰に、びテアヒガルを、妻に、めよ
 らん、とて、人を、遣へ、して、みれ、と、かたら、せしむ、びテアヒガルの、僕、カルメル、おを、る、アヒガルの、請、おいたり、て、みれ、お
 たり、ひ、ひける、びテアヒガ、汝を、妻、おめ、とら、ん、とて、我ら、を、汝、お遣へ、すと、アヒガル、たち、て、地、おふ、して、拜、い
 ひ、ける、人、視、お、婢、わ、が、主の、僕等、の、足を、洗、お、仕、女、あり、と、アヒガル、い、う、ぎ、たち、て、驢、馬、お、乘、り、五、人、の、侍、女、と
 ども、お、びテアヒガの、僕、者、お、ま、た、か、ひ、ゆ、きて、びテアヒガの、妻、お、なる、びテアヒガ、エスレの、アヒガ、を、娶、れ、り、彼
 三 二人、びテアヒガの、妻、お、ある、但し、サウル、ハ、びテアヒガの、妻、なり、し、其、女、ニ、カルを、ハ、ガリム、の、人、お、る、ラ、イ、の、子、

三 撒母耳前書第二十五章三十二節
 三三 撒母耳前書第二十五章三十三節
 三四 撒母耳前書第二十五章三十四節
 三五 撒母耳前書第二十五章三十五節
 三六 撒母耳前書第二十五章三十六節
 三七 撒母耳前書第二十五章三十七節
 三八 撒母耳前書第二十五章三十八節
 三九 撒母耳前書第二十五章三十九節
 四〇 撒母耳前書第二十五章四十節
 四一 撒母耳前書第二十五章四十一節
 四二 撒母耳前書第二十五章四十二節
 四三 撒母耳前書第二十五章四十三節
 四四 撒母耳前書第二十五章四十四節

ルチおあへたり

三 びテアヒガの、請、おいたりて、いひける、ハ、びテアヒガの、曠野の、お、入、お、る、ハ、
 二 三、の、山、お、かく、れ、を、る、お、わ、ら、赤、お、と、サウル、お、す、お、こ、ら、起、り、三、の、野、お、びテアヒガを、尋、ね、ん、と、イスラエルの、中、よ
 一 人、選、み、たる、三、千、の、人、を、お、た、か、へ、て、三、の、野、お、く、だ、る、ハ、サウル、の、曠野の、お、入、なる、ハ、三、の、山、お、お、いて、路、の
 邊、より、お、陣、を、取、る、びテアヒガの、曠野、お、居、て、サウル、の、鳥、の、れ、を、お、よ、て、曠野、お、き、きた、る、を、さ、とり、けれ、びテアヒガ
 候、を、出、して、サウル、の、誠、お、來、し、を、お、ま、れ、り、こ、お、お、いて、びテアヒガ、た、ら、て、サウル、の、陣、を、お、と、れ、る、と、こ、ろ、お、いた、り
 二 三、の、野、を、よ、び、其、軍、の、長、キ、ル、の、子、テ、アヒガ、の、寢、た、る、と、こ、ろ、を、見、た、り、す、お、ち、サウル、の、車、營、の、中、お、寢、ぬ、其、
 三 六、さ、り、お、陣、を、お、と、れ、り、びテアヒガ、答、へ、て、テ、アヒガ、を、よ、び、せ、ル、ヤ、の、子、に、し、て、ヨ、ア、ア、の、兄、弟、お、る、ア、ヒ、ガ、
 七 八、ヤ、お、ひ、ひ、る、人、誰、か、我、お、も、ど、も、に、サウル、の、陣、お、く、だ、ら、ん、か、と、びテアヒガ、い、ふ、我、汝、と、ど、も、お、下、ら、ん、と、び
 九 十、ア、ヒ、ガ、の、請、お、いた、る、に、視、よ、サウル、の、車、營、の、うち、お、寢、ぬ、し、其、槍、地、お、さ、して
 一 一、枕、邊、お、あ、り、ア、ヒ、ガ、と、民、の、其、ま、は、り、お、寢、た、り、ア、ヒ、ガ、の、手、お、ひ、ける、人、神、今日、爾、の、敵、を、爾、の、手、に
 二 二、お、た、し、た、ま、ふ、請、お、い、ま、我、お、槍、を、も、て、お、れ、を、一、度、地、お、さ、し、と、使、さ、し、め、よ、ま、再、び、す、る、に、お、よ、ま、し、びテアヒガ、
 三 三、サ、イ、に、い、ふ、彼、を、お、ろ、す、な、か、れ、誰、か、ニ、ホ、バ、の、膏、お、く、ぎ、し、者、お、敵、し、て、其、手、を、の、べ、て、罪、な、か、ら、ん、と、びテアヒガ、
 四 四、ま、た、い、ひ、ける、ハ、ニ、ホ、バ、の、生、く、ニ、ホ、バ、お、か、れ、を、懲、ら、せ、ん、お、ひ、の、の、死、ぬ、る、日、來、ら、ん、お、ひ、る、ハ、
 五 五、い、て、死、う、せ、ん、わ、が、ニ、ホ、バ、の、お、お、ら、そ、く、ぎ、し、も、に、敵、し、て、手、を、の、お、る、と、い、ひ、さ、め、て、善、ら、ず、ニ、ホ、バ、の、禁、じ、
 六 六、た、ま、ふ、さ、れ、ど、い、ま、請、お、う、の、ま、く、ら、も、ど、の、槍、と、水、の、瓶、を、お、と、れ、去、り、て、我、ら、さ、り、ゆ、か、ん、と、びテアヒガ、
 七 七、の、枕、邊、より、槍、と、水、の、瓶、を、取、り、て、か、れ、ら、ざ、り、ゆ、き、し、が、誰、も、見、お、誰、も、去、ら、ず、誰、も、目、を、醒、さ、し、り、さ、其、ハ、か、れ、ら

一 撒母耳前書第二十五章三十一節
 二 撒母耳前書第二十五章三十二節
 三 撒母耳前書第二十五章三十三節
 四 撒母耳前書第二十五章三十四節
 五 撒母耳前書第二十五章三十五節
 六 撒母耳前書第二十五章三十六節
 七 撒母耳前書第二十五章三十七節
 八 撒母耳前書第二十五章三十八節
 九 撒母耳前書第二十五章三十九節
 一〇 撒母耳前書第二十五章四十節
 一一 撒母耳前書第二十五章四十一節
 一二 撒母耳前書第二十五章四十二節
 一三 撒母耳前書第二十五章四十三節
 一四 撒母耳前書第二十五章四十四節

